

# 八清親和会 自治会役員の一とり言

令和2年9月8日 No23

八清親和会 副会長 吉田祐治

## 八清親和会は、会員に自治会活動・情報の「今」を届けています！ 副題“今だからこそ 自治会、存在感を再び！”

今年は、新型コロナウイルス感染拡大により、自治会としても今までに経験をしたことがない自治会活動の中止や自粛の年となった。

このコロナ禍（わざわい）を契機にして、会員との対面接触を中心とした、自治会運営や活動方法を見直し、対面接触が制限される環境下でも、活動できる自治会運営を考え進める機会でもある。制限された環境下でも、会員に自治会の運営や活動を行っているという、会員に“見える、見せる”「変化に対応できる柔軟性のある自治会運営活動」が、今必要であり、また変革するチャンスでもある。

ビジネス用語で“平時のボトムアップ、危機（非常時）のトップダウン”という言葉がある。これは自治会用に解釈するならば、平常時の自治会運営や活動は「会員の声を聞き、会員の声を拾い（会員からの提案）」運営・活動するのが良いということであり、今年のように、自治会としても今までに経験をしたことがない行事や活動の中止・自粛、会員との対面接触が制限される環境の中で、如何に会員と一緒に自治会運営や活動をしていくかを考え、このコロナ禍の非常時を乗り越えるかが、自治会会長・役員役目である。

また、自治会会長・役員は、このような環境の中で、会員に自治会として「どんなサービスを提供するのか」「どんなニーズに応えられるのか」「どんな運営・活動を重点的におこなおうとしているのか」明確なビジョンを打ち出し、会員に示すことが重要であり、これを率先だって実行していくことが、自治会のトップダウンである。 “有限実行”

会員は、行事や活動の中止、自粛の中で、何の方向性も示されず、分からず、また情報が降りてこない、伝わってこないでは、会員のモチベーションが下がり、役員と会員の距離が遠くなり、やがては自治会から離れて行く。

今年は、このように自治会として経験をしたことがない環境の中で、自治会役員が行っている運営・活動を「会員に知らせる、知ってもらうこと」がもっとも重要であると考え、活動する必要がある。

例えば、他の自治会役員から「私は、自治会の為に一生懸命活動しているのだが」と、いう言葉をよく耳にするが、これは自画自賛であり、役員が本当に自治会の為に一生懸命やっているかどうかは、会員が評価することであり、いくら役員が良いと思ってやっても、会員が求めているものや、困っていることと乖離していれば、評価されない。

会員は評価していれば、自治会に関心を持ち、行事・活動に参加し、意見や提案が出てくる。評価してなければ、自治会に関心がなくなり、行事・活動に参加しなくなり、どうせ意見や提案しても、問題解決や実現しないからと、言うだけで、無関心になり。役員だけの浮き上がった自己満足、自画自賛の自治会運営や活動になる。このため、八清親和会も過去の経験から改善してきた。

これらを念頭に、今年は自治会の行事・活動や対面接触が中止・自粛・制限される“動”の活動ができない環境下で、会員と一緒に（全会員への周知）にできる、あるいは共有できる活動は、まさに“静”の広報活動であると方向をしっかりと定め、この広報活動を中心にした、新しい取り組みや、従来の広報活動をさらに充実し、自治会の存在感を高める努力をしている。

では、八清流親和会の自治会の存在感を高める広報活動とはどのようなものかと、言うと、

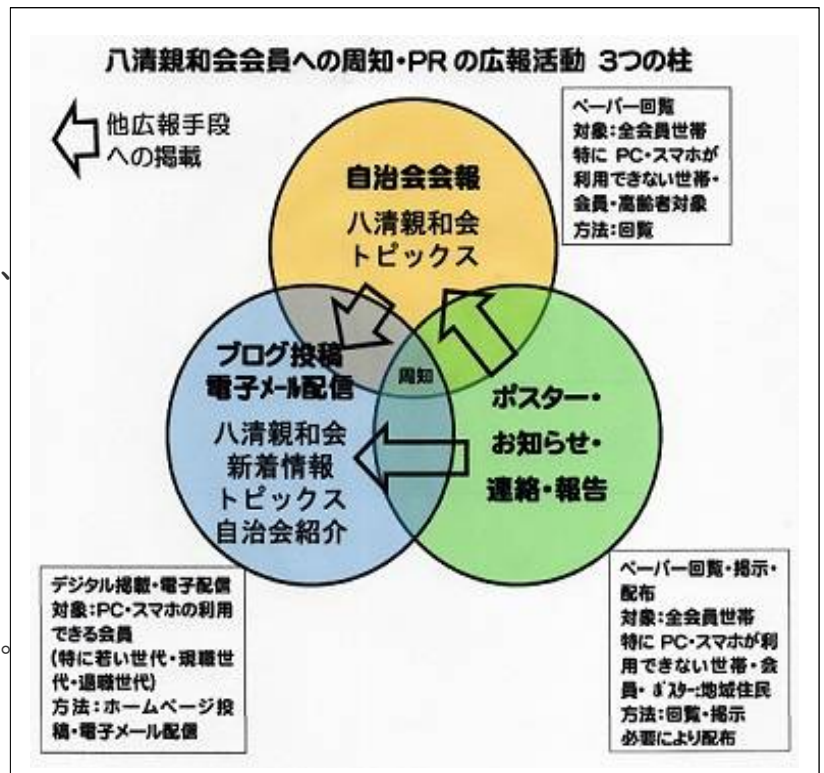
八清親和会の自治会としての存在感を高めている広報とは、右の図に示す広報3本の柱である。この一本でも欠ける、あるいは弱体ならば、その自治会の広報はしっかりしているとは言えない。この3つの広報活動が融合、あるいは補完し合っこそ全世帯会員、会員末端迄、情報が伝わり、周知されるのである。

また平時と同じような広報活動だけでは、自治会の存在感を高める広報活動にはならない。

今年の世の中の“風をよみ”  
自治会員の“空気よむ”

情報・広報活動が必要である。  
これが自治会の存在感を高めるのである。

では、今年の自治会の存在感を高める広報活動の重要話題は何かというと、新型コロナウイルス感染情報と感染予防対策情報である。これを、新聞や、メディアで報道されない、



- 会員のための
- 会員目線で
- 会員が必要とする

最新情報をタイムリーに提供することである。

これが自治会の存在感を高め、自治会を変革するチャンスにもなる。

今や、IT時代である情報のスピードは月単位ではない、遅くとも日単位であり時間単位である。今や、3ヶ月前の古新聞のような情報の会報を配布、回覧されても会員は見ないし、興味を示さない。これは作成者の自己満足にほかならない。

また、行事や活動の中止・自粛、会員との対面接触が制限される環境の中でも、会員に伝える、伝えなければならない情報はいくらかもある。ないと言って自治会活動や情報活動を休止しているようでは、自治会の衰退は有っても、自治会を元気にすることができるはずがない。

このような、自治会をとりまく環境をしっかりと見据えた情報、広報活動は、単一自治会でもやる気があればできる。自治会役員チャレンジせよ！

同じことが、どこかの上部団体にも言える。

情報がストップしている。

情報が下部自治会まで伝わっていない。

以上、ある自治会役員のひとり言です。

以上